



森林と林業

- 1 大阪の森林の分布
- 2 大阪府の森林・林業施策体系
- 3 大阪の森林・林業の概要
- 4 大阪の森林・林業・木材産業統計一覧
- 5 大阪の森林・林業の現状
- 6 大阪の木材産業の現状
- 7 地域の森林・林業の概要

11月

は、山に親しむ推進月間
第2土曜は、おおさか山の日

1 大阪の森林の分布



凡例

	地域森林計画 対象民有林
	国定公園
	府立自然公園

2 大阪府の森林・林業施策体系

- 大阪府の森林・林業施策は、「大阪府新農林水産業振興ビジョン」(平成 13 年度策定)で策定した「森林プラン」に基づき推進しています。
- この森林プランは、「森林バイオマス利用推進行動計画」と「森づくり推進ガイドライン」を両輪とし、資源循環を基調とした森林管理や森林資源の有効利用とともに府民との協働による森づくりを目指します。

大阪府新農林水産業振興ビジョン

大阪府森林プラン

森林バイオマス 利用推進行動計画

連携

森づくり推進 ガイドライン

【目的】

■循環型社会の構築に向け、木質バイオマス資源等の活用を推進し、森の資源を都会に活かす「森林バイオマス利用先進都市」を目指す。

【展開方向】

1 森と木にふれあう暮らしの創造

- 木材利用による健康的な生活空間の創造
- 顔の見える木材による森づくり推進
- 公共部門等における木材利用の推進
- 炭を活用した安心・快適な生活環境の提供



木製治山ダム

2 森林バイオマス産業の創出

- 木質ペレットを中心としたエネルギー利用
- 産学民官協同による新産業の創出
- 資源のカスケード（多段階）利用の推進
- 森のコミュニティビジネスの育成



木質ペレット

3 都市の健康を育む森づくり

- 府民の安全・安心を確保する森づくり
- 里山林の元気回復
- 健康づくりの場としての里山林等の利用



手入れの行き届いた健全な人工林

【目的】

■ガイドラインに示す仕組みに基づき、多様な主体による多様な森づくりを府民と協働で実施する。

【仕組み】

森づくりサポート協議会

【各事務所が事務局】

- 構成：府・市町村・地元代表・林業団体等
- 森づくり活動を施策・技術・人材面から支援

連携
・
支援

森づくり委員会(活動団体)

- ボランティア団体・NPO・企業・行政等で構成し、整備目標に基づき活動する団体（平成18年3月末現在17団体）



森づくり委員会の里山整備

【展開方向】

- 森づくり委員会による森づくり活動の推進
- おおさが「山の日」・「山に親しむ推進月間」の推進
- アドプトフォレスト制度の推進 等

【効果】

- 森林の多面的機能の発揮
- 地球温暖化防止
- 府民協働による森づくり活動の拡大
- 森林整備を通じた木材利用推進 等

森林プランについて

I 大阪府森林バイオマス利用推進行動計画の取組み事例

◆公共部門等における木材の利用推進

○庁内に10部局15室課からなる木材利用促進庁内連絡会を設置し、連絡会で策定した「大阪府木材利用推進指針」に基づき、関係部局に対し、公共事業での木材の利用を働きかけています。

■平成17年度実績：

木材目標量 1,700 m³ → 実績 1,646 m³
チップ目標量 7,000 m³ → 実績 7,554 m³



府内産木材使用の木製谷止工(高槻市杉生)



自然公園の木道(四條畷市むろいけ園地)

◆木質ペレットを中心としたエネルギー利用

○大阪府森林組合では、間伐材等を有効に活用するため、木材の資源化を行っています。
○木材破砕機(タブ・グラインダー)で破砕された木材は、木質チップとして法面のマルチング材、燃料等に、また、ペレットはストーブや温泉のボイラー燃料として、利用されています。



木材破砕機(タブ・グラインダー)



木質ペレット

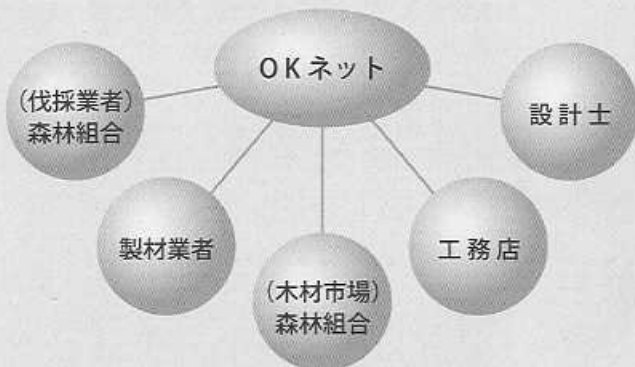


ペレットストーブ

◆顔の見える木材による森づくりの推進

○平成17年6月に大阪の山の再生、林業の振興、地元材や自然素材を使った安全安心な家づくりを進めるため、森林組合・設計士・工務店等が集まり『おおさか河内材利用推進ネットワーク協議会(OKネット)』を設立しました。

OKネットの構成メンバー



おおさか河内材の家

II 大阪府森づくり推進ガイドラインの取り組み事例

◆森づくりサポート協議会と森づくり委員会

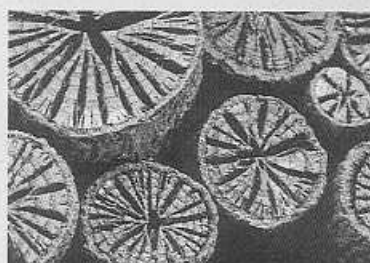
- 森づくり委員会では、貴重な環境資源である森林を有効に活用し、その多面的機能を発揮させながら適切に保全整備・管理を行っていくため、林業者、森林所有者のみならず、地域住民、都市住民、教育関係者、企業、行政などの多様な主体で構成され、地区・集落ごとの森づくりや情報発信等を行っています。
- また、森づくりサポート協議会では、府内5つの地区（各事務所・分室単位）ごとに自然環境や地域社会の特色を活かした森づくりの推進を議論しながら、地区内の森づくり委員会がより活発に活動ができるよう支援しています。
- 現在、府内で5つの森づくりサポート協議会と17の森づくり委員会があります。（平成18年4月現在）。



多様な主体による森づくり委員会



府民協働の森づくり



復興が期待される「池田炭」

◆府民と協働の森づくり

「山に親しむ推進月間」とおおさか「山の日」

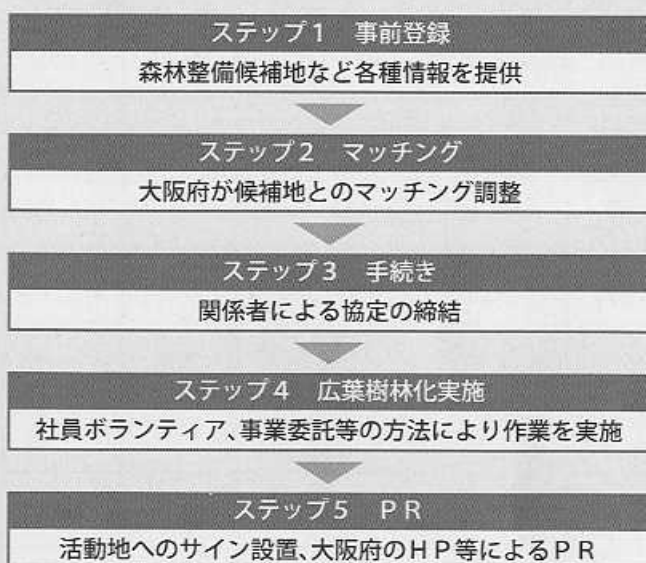
- 府民が森づくりに関わるきっかけを増やし、森づくり推進ガイドラインに基づく府民協働の森づくりをより活発にするため、平成17年度より11月を「山に親しむ推進月間」、同月第2土曜日をおおさか「山の日」と制定しました。
- 「山に親しむ推進月間」中は、関係団体の協力により、山で楽しみ、森林の機能を学び、環境を守り育てる契機となるイベント等を府内各地で開催しています。



おおさか「山の日」フェスティバル in 二上山(平成17年度)

◆企業参加の森づくり(アドプトフォレスト制度)

- 地球温暖化防止や生物の多様性確保に貢献するため、森づくりに参加したい企業等と、手入れが行き届かず放置された人工林や竹林を大阪府が仲介して結び付け、環境林化する制度です。
- 本制度により森林の整備を行った企業等には、府温暖化防止条例に基づく温暖化対策計画において、整備した森林による二酸化炭素吸収量を、削減対策の一つとして評価します。



企業の森づくり(岸和田市・神於山)



放置森林の整備活動

3 大阪の森林・林業の概要

■ 大阪府の森林の概要

- 大阪府の森林は、府域の約3割を占め、北から北摂、金剛生駒、紀泉葛城の三山系からなり、高度な都市化が進んだ大阪平野を取り巻く形で位置している。
- 林野率は、全国の67%に比べ31%と全国最低ではあるものの、人工林率は49%と、全国平均の41%を上回っている。
- 森林の98%を民有林が占め、その内の約9割が私有林である。
- 人工林蓄積は、奈良吉野林業の流れを汲み、約300年もの伝統に培われた河内林業地帯を擁する南河内、泉州東部地域で約7割(4,828千m³)を占めている。
- 南河内、泉州東部地域以外の地域は、アカマツ、クヌギ、コナラ等が多く、全般的に人工林率は低い。

4 大阪の森林・林業・木材産業統計一覧

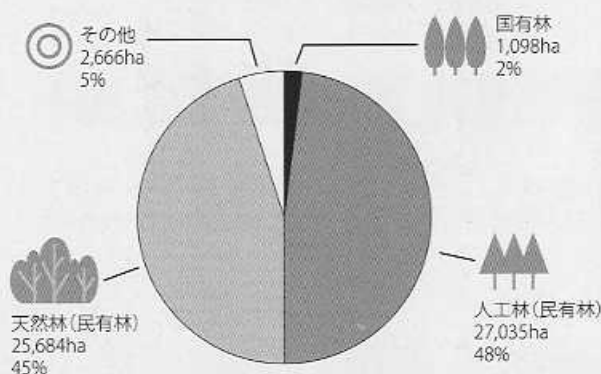
区分		単位	数量	データ年度	区分		単位	数量	データ年度
林野率 <small>(地域森林計画対象民有林+国有林+その他) × 100 土地面積</small>	%	31	H17	生しいたけ年間生産量		t	281	H17	
				乾しいたけ年間生産量		t	2	H17	
府民1人当たり森林面積		m ²	64	H17	素材需要量	合計	千m ³	49	H16
森林面積	合計	ha	56,483	H17		国産材	千m ³	8	H16
	地域森林計画対象民有林	ha	55,385	H17		外材	千m ³	41	H16
	国有林	ha	1,098	H17	外材率		%	84	H16
民有林蓄積	合計	千m ³	7,515	H17	素材生産量	合計	千m ³	22	H16
	人工林蓄積	千m ³	4,828	H17		製材用素材	千m ³	4	H16
	天然林蓄積	千m ³	2,687	H17		チップ用素材	千m ³	18	H16
人工林面積		ha	27,035	H17	新設住宅着工戸数		戸	42,498	H16
人工林率		%	49	H17	木造住宅戸数		戸	26,489	H16
保安林率		%	28	H17	木造率		%	63	H16
林道密度(自動車道)		m/ha	4.8	H17	製材等工場数	合計	工場	92	H16
林業産出額		千円	580,000	H16		製材工場数	工場	73	H16
林家数		戸	10,540	H12		合単板工場数	工場	19	H16
くりの年間生産量		t	203	H17	木材流通関係事業所数		箇所	1,099	H13

5 大阪府の森林・林業の現状

1 森林面積 (府みどり・都市環境室調べ)

- 地域森林計画対象民有林と国有林が府域に占める割合は、30%
- 人工林率は49%と全国の41%を上回る

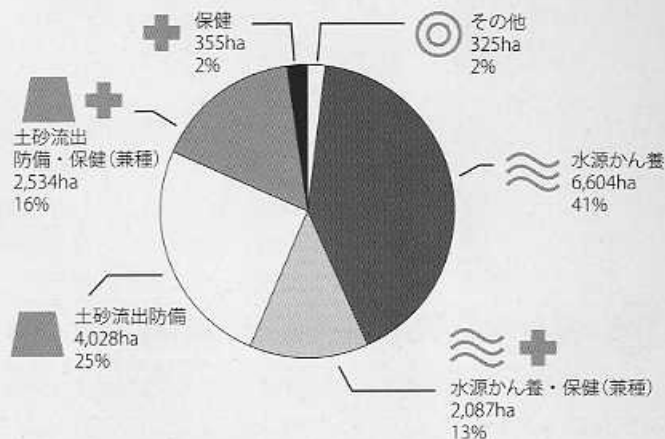
森林面積(平成17年度)
56,483ha



4 保安林種類別指定面積 (府みどり・都市環境室調べ)

- 保安林指定面積は約1万6千haで、府内森林面積の約1/4を占める
- 水源かん養保安林と土砂流出防備保安林が、保安林面積の約7割を占める

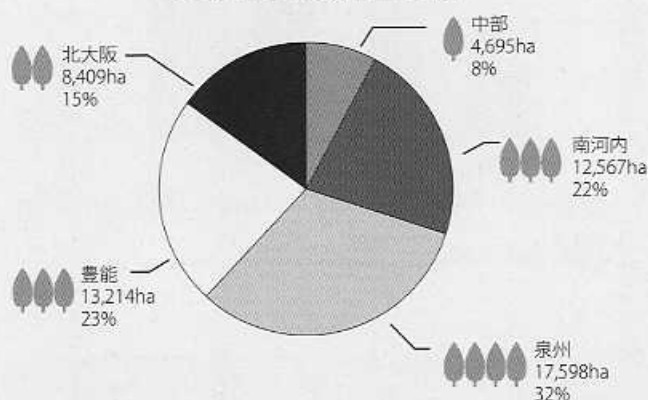
保安林の内訳(平成17年度)
15,933ha



2 地域別森林面積 (府みどり・都市環境室調べ)

- 南河内、泉州地域で森林の約5割を占める

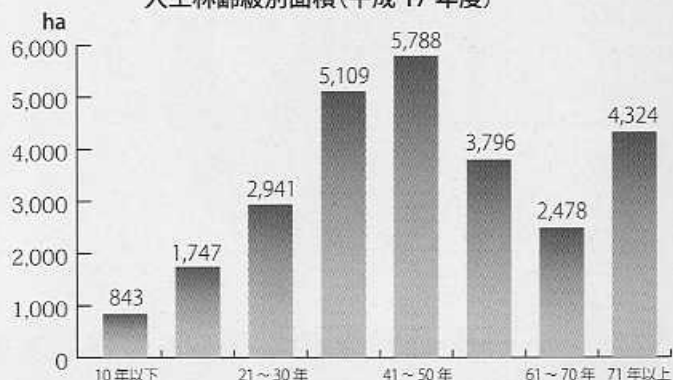
地域別の森林面積内訳(平成17年度)
森林面積計 56,483ha
(地域森林計画対象民有林+国有林)



5 人工林齢級別面積 (府みどり・都市環境室調べ)

- 7～10 齢級(31年～50年生)の林分が人工林の約4割を占める
- 間伐対象齢級3～7(11年～35年生) 齢級の林分が約7千haで人工林の約3割

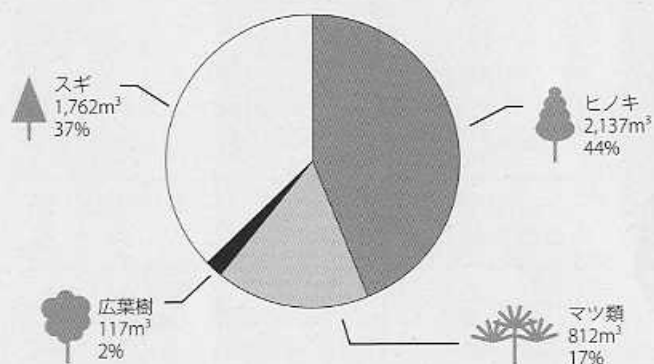
人工林齢級別面積(平成17年度)



3 人工林樹種別蓄積 (府みどり・都市環境室調べ)

- ヒノキ(44%)、スギ(37%)で人工林蓄積の約8割を占める

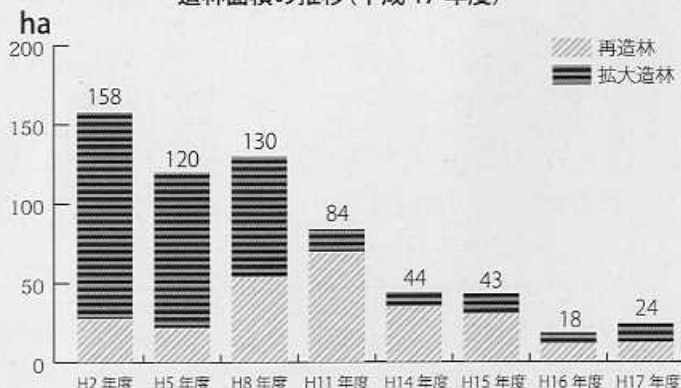
人工林の樹種別蓄積(平成17年度)
4,828千m³



6 造林面積の推移 (府みどり・都市環境室調べ)

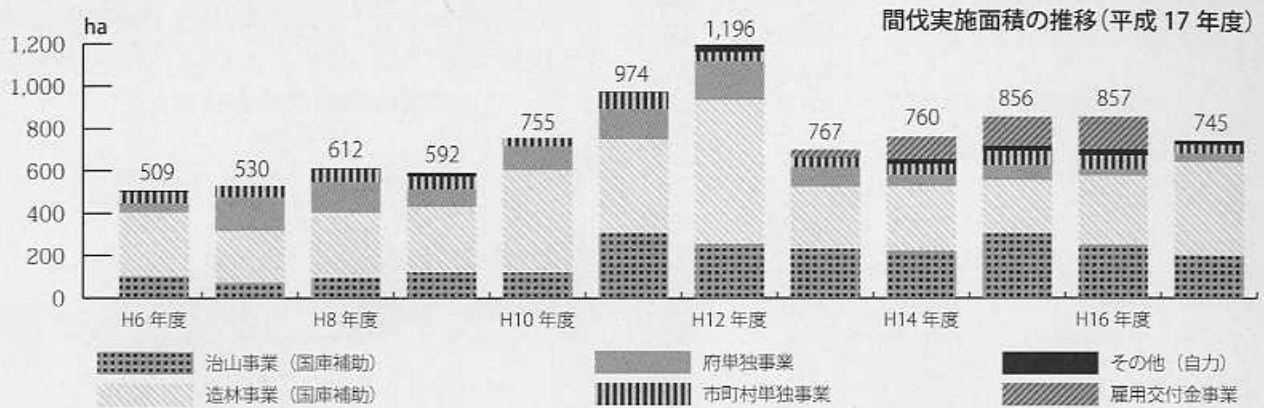
- 近年の造林面積は、平成2年度の拡大造林主体の約160haをピークに減少傾向で推移し、平成17年度は24haと大幅に減少

造林面積の推移(平成17年度)



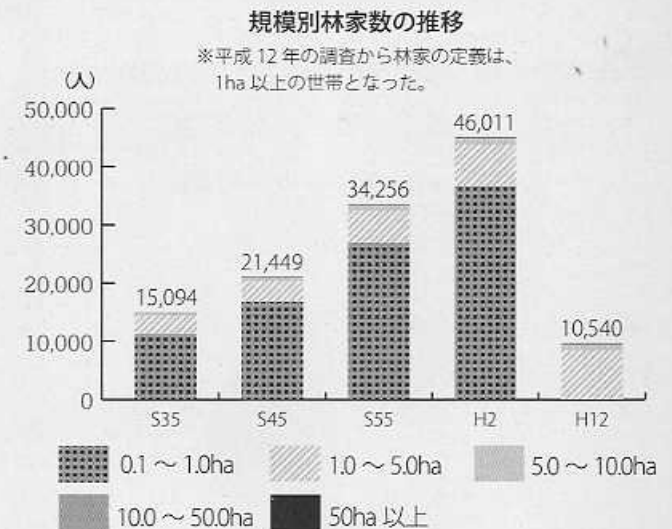
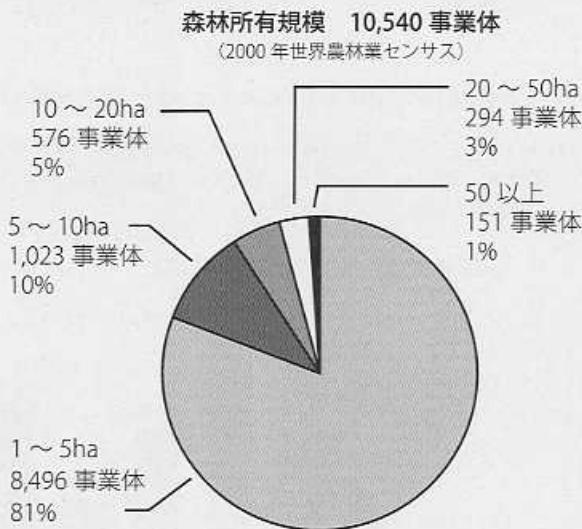
7 間伐実施面積の推移 (府みどり・都市環境室調べ)

○平成12年度をピークに平成13年度以降は、800ha前後で推移 ○年間に間伐を必要とする面積に対する実施率は7割程度



8 保有山林規模別林家数の推移 (各年世界農林業センサス)

○他府県の実有山林保有を含む林家数は、昭和55年から平成12年までの20年間で42%増加し、林地保有の細分化が進展



9 大阪府森林組合の概要 (平成18年4月現在)

■沿革

- 平成13年10月19日 府内16森林組合が合併し、府内全域を組合の地区とする大阪府森林組合が設立
- 平成14年2月1日 大阪府森林組合が大阪府森林組合連合会の権利義務を継承

■組織

【本店】大阪府中央区馬場町(大阪府農林会館内)

【支店】豊能支店(能勢町)、三島支店(高槻市)、南河内支店(河内長野市)、泉州支店(和泉市)

【その他】市町村を単位に選出された地区推進委員による地区推進協議会を設置

【運営施設】

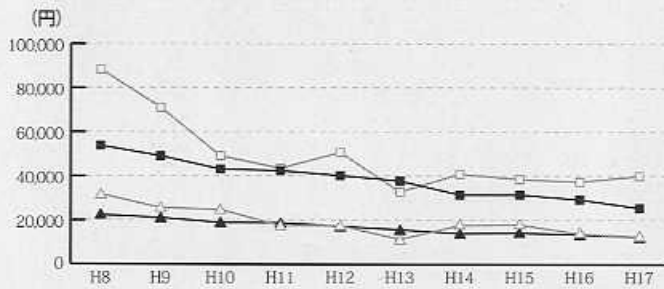
- 能勢事業所、能勢木材加工センター(以上、能勢町)
- 高槻事業所、高槻木材加工センター、森林資源加工センター、高槻森林観光センター(以上、高槻市)
- 河内長野事業所、ウッドベースかわちながの、河内長野市立林業総合センター(以上、河内長野市)
- ラ・フォレスト(南河内林業総合センター)、木材共販所、南河内樹木リサイクルセンター(以上、千早赤阪村)

区分	組合員(人)	役員(人)	出資金(千円)	組合員経営森林面積(ha)	作業班員(人)	常勤職員(人)
大阪府森林組合	7,054 (准組合員含で7,124)	18 (内常勤1)	205,479	36,787	197	60 (内現場職員28)

6 大阪の木材産業の現状

1 木材価格の推移 (府みどり・都市環境室調べ)

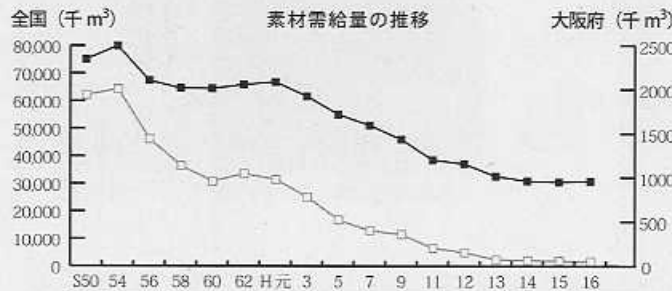
- 府内産スギの平成17年価格は、全国平均とほぼ同額の12,500円で、平成8年と比較して0.4倍に下落
- 府内産ヒノキの平成17年価格は、平成14年水準の4万円、平成8年と比べると0.45倍に下落し、全国平均との価格差も3万5千円から1万5千円と府内産木材の価格下落が顕著



		H9	H11	H13	H15	H17
全国	▲ スギ	21,100	18,800	15,700	14,300	12,400
	■ ヒノキ	49,100	42,400	37,800	31,600	25,500
大阪	△ スギ	25,600	17,500	11,300	18,000	12,500
	□ ヒノキ	71,100	43,500	32,800	38,600	40,000

2 素材需給量の推移 (府みどり・都市環境室調べ)

- 素材需給量は、全国、府内とも近年漸減傾向で推移
- 減少要因は、木材原産国の原木輸出規制に伴う製品輸入増加のため

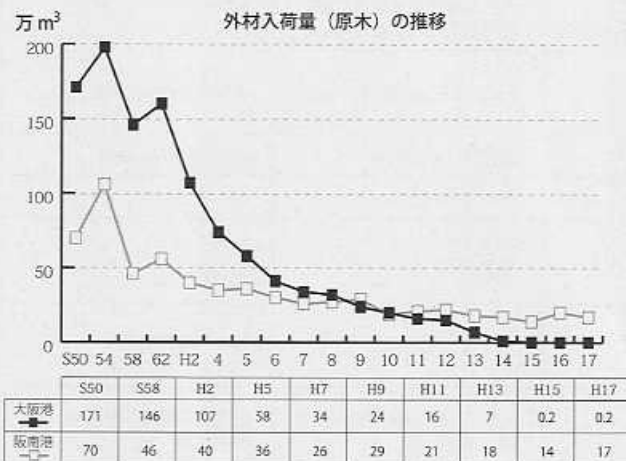


	S50	S56	S80	H元	H5	H9	H12	H14	H16
全国	75,063	67,338	64,477	66,777	55,021	45,984	37,099	30,902	30,855
大阪府	1,938	1,437	959	977	518	354	150	62	49

3 外材入荷量 (原木) の推移

(平成17年度第2回大阪府木材流通対策協議会資料)

- 昭和40年代は、年間200万m³前後で推移していたものの、昭和50年代以降の原木輸出規制に伴い急激に減少
- 平成10年は両港で40万m³であったが、平成17年は約20万m³と最盛期の1/10にまで減少



	S50	S58	H2	H5	H7	H9	H11	H13	H15	H17
大阪港	171	146	107	58	34	24	16	7	0.2	0.2
阪南港	70	46	40	36	26	29	21	18	14	17

4 外材入荷量 (製材品) の推移

(平成17年度第2回大阪府木材流通対策協議会資料)

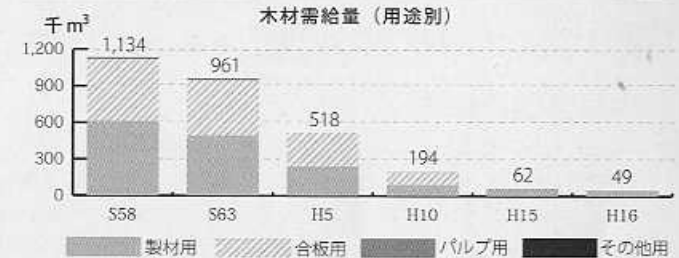
- 昭和50年代の製品輸入の本格化に伴い、大阪港の製材品入荷が増加。平成8年の276万m³をピークに減少に転じ、近年は120万m³前後で推移
- 阪南港の製材品入荷量は、昭和50年から近年まで2万m³以下で推移



	S50	S58	H2	H5	H7	H9	H11	H13	H15	H17
大阪港	20	63	128	230	253	264	117	95	129	114
阪南港	2	0.1	0.5	1.5	0.9	0.3	0.2	0.1	0.7	0.4

5 木材需給量の推移 (府みどり・都市環境室調べ)

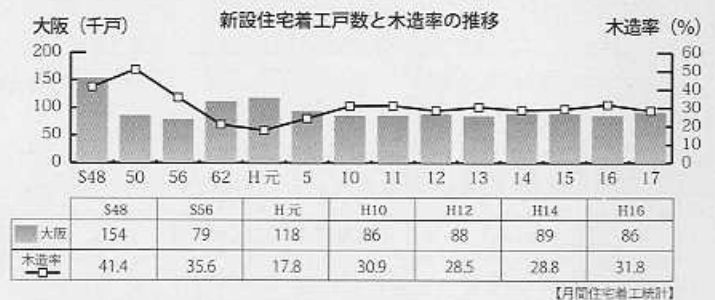
- 需給量49千m³の内訳は、外材が41千m³、他府県産材が5千m³、府内産材が3千m³で、木材の自給率は6%



6 府内の新設木造住宅数と木造率の推移

(府みどり・都市環境室調べ)

- 近年の新設住宅着工戸数は、平成8年の121千戸をピークに減少に転じ、平成17年は、平成16年に比べ6,294戸増加の92,271戸であったが、木造率は3.3ポイント減少の28.5%



	S48	S56	H元	H10	H12	H14	H16
大阪	154	79	118	86	88	89	86
木造率	41.4	35.6	17.8	30.9	28.5	28.8	31.8

【月間住宅着工統計】

7 公共事業における木材利用量の推移

(府みどり・都市環境室調べ)

- 「大阪府木材利用推進指針」の木材利用量(H19年度末)は、1,700m³
- 1,700m³は、間伐率20%の森林、約100haから発生する間伐材積に相当



	H12	H13	H14	H15	H16	H17
その他(他部署)	1	3	0	0	17	61
都市整備部	169	121	127	134	161	248
環境農林水産部	1,337	1,009	1,307	1,467	1,474	1,337

8 (社) 大阪府木材連合会の概要 (平成 18 年 4 月現在)

■ 沿革

- ・昭和 37 年 1 月 25 日 大阪府木材組合連合会 設立
- ・昭和 56 年 4 月 1 日 社団法人大阪府木材連合会に組織名称変更承

■ 組織

- 【会員】正会員 23 団体 賛助会員 124 社 (平成 18 年 3 月末)
 【役員】理事 22 名 (うち会長 1 名、副会長 7 名、専務理事 1 名、常務理事 1 名) 監事 2 名
 【事務所】大阪市西区新町 3 丁目 6 番 9 号 大阪木材会館内



林業労働力確保支援センターの担い手研修

主な業務

- ①木材利用の促進
 - ・木材展示会の開催 / 研修会の開催 / パンフレット等の配布 / 製材品の J A S 検査 / 合法性木材の認定
- ②相談業務
 - ・木材の相談 / 農林漁業信用基金に係る相談
- ③その他各種の共済制度の普及

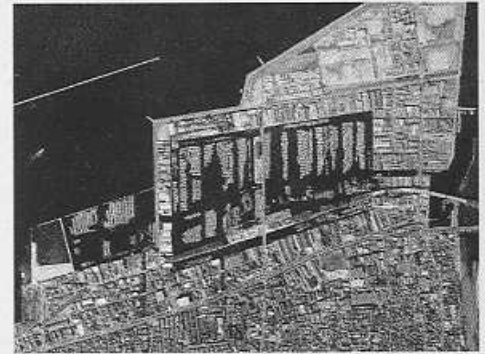
関連業務

- 大阪府林業労働力確保支援センター
 - ・林業就業希望者に対する相談 / 林業事業主等に対する雇用改善の指導 / 林業体験、研修等の開催 / 緑の雇用担い手育成対策事業に係る業務等
- 林業・木材製造業労働災害防止協会大阪府支部
 - ・技能講習、特別教育等の開催 / 安全巡回指導の実施 / 林業リスクアセスメントの普及定着 / チェーンソー等の振動障害予防対策

9 大阪の木材産業の概要 (平成 18 年 4 月現在)

1 木材需給の概要

- 本府は、大阪都市圏を中心とした旺盛な住宅需要を背景に木材の一大消費地であるとともに、集散地、中継地的市場としての性格が強く、全国の木材の流通拠点として発達し、木材流通部門の全国シェアは、東京都に次いで高い水準となっている。
- 素材需要量は、昭和 48 年のピークを境に二度にわたるオイルショックなどの影響により総体的に減少傾向にある。
- 供給面では、素材需要の約 8 割 (平成 15 年次) を外材に依存しており、港湾を中心に配した加工流通体制が構築されているものの、木材輸出の丸太輸出規制による原木取扱量の減少に伴い、水面貯木場の余剰が増加している。



大阪木材コンビナート (岸和田市・忠岡町)

2 木材産業

- 府下の木材産業は、主に港湾部の貯木施設を中心に外材専門大型製材工場及び普通合板工場並びに内陸部に立地する特殊合板工場をはじめとする二次加工工場及び地域内供給を目的とする質挽製材工場、またそれらに関連する木材流通業等の木材産業に大きく分類される。
- 平成 16 年時点の工場数は、製材工場 76 工場、合板工場 19 工場 (「単板のみ」の工場は 1 工場、「普通合板のみ」は 1 工場、「普通合板と特殊合板」は 0 工場、「特殊合板」は 17 工場) である。

3 木材産業拠点の概要

団地名	大阪木材コンビナート	大阪港平林団地	大阪木材工場団地	大阪銘木団地	
タイプ	臨海型 (生産基地)	臨海型 (総合基地)	内陸型 (加工基地)	内陸型 (銘木専門基地)	
所在地	岸和田市、忠岡町	大阪市住之江区	堺市美原区	摂津市	
造成地	目的	防災及び木材需給の安定並びに木材産業の振興	戦災復興事業の一環として市土地区画整理事業 (大正区小林町から集団移転)	需給の急激な拡大に対応するための企業体質の改善、設備の近代化協業	
	事業主体	府環境農林水産部 (港湾施設は、都市整備部)	大阪市	大阪木材工場団地協同組合	
	年度	昭和 38 ~ 43 年度	昭和 29 ~ 38 年度	昭和 39 ~ 45 年度	昭和 39 ~ 46 年度
	供用開始	昭和 41 年度	昭和 32 年度	昭和 42 年度	昭和 41 年度
企業用地の規模 (造成地面積)	83ha (131ha)	72ha (141ha)	26ha (50ha)	8ha (8ha)	
企業用地以外の主な土地利用 (施設)	木材整理場 18ha 水面貯木場 73ha	木材整理場 42ha 水面貯木場 83ha	共同施設用地 6ha	銘木市場 1.5ha	
運営 (自治) 機関	名称 (社) 大阪木材コンビナート協会 会員数 122	平林会 会員数 170	大阪木材工場団地協同組合 組合員数 51	大阪銘木団地共同組合 組合員数 63	

ハローワークの

農林業等

就職相談コーナー

あなたの農林漁業への就職を

ハローワークが応援します！

1. 全国の求人情報を提供
2. 農林漁業に関する相談と紹介
3. 関連団体からの案内を展示
4. 研修・体験制度等の情報提供

全国の
求人情報
提供！

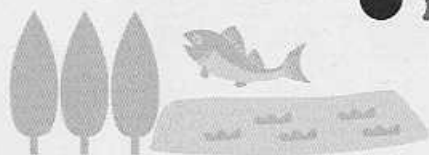
インターネットが使える方は…

<http://www.aff-job.go.jp/>へ今すぐアクセス♪

● メールマガジンの配信登録受付中!

● 農林漁業就業の為のノウハウ

● 農林漁業で働いている先輩の声



ハローワーク大阪西 (大阪西公共職業安定所)
農林業等就職相談コーナー・就農等支援コーナー
1階 9番窓口

ところ：大阪市港区南市岡 1-2-34

TEL：06-6582-5271

FAX：06-6581-5462

ホームページアドレス：

<http://osaka-rodo.go.jp/hw/nishi/>

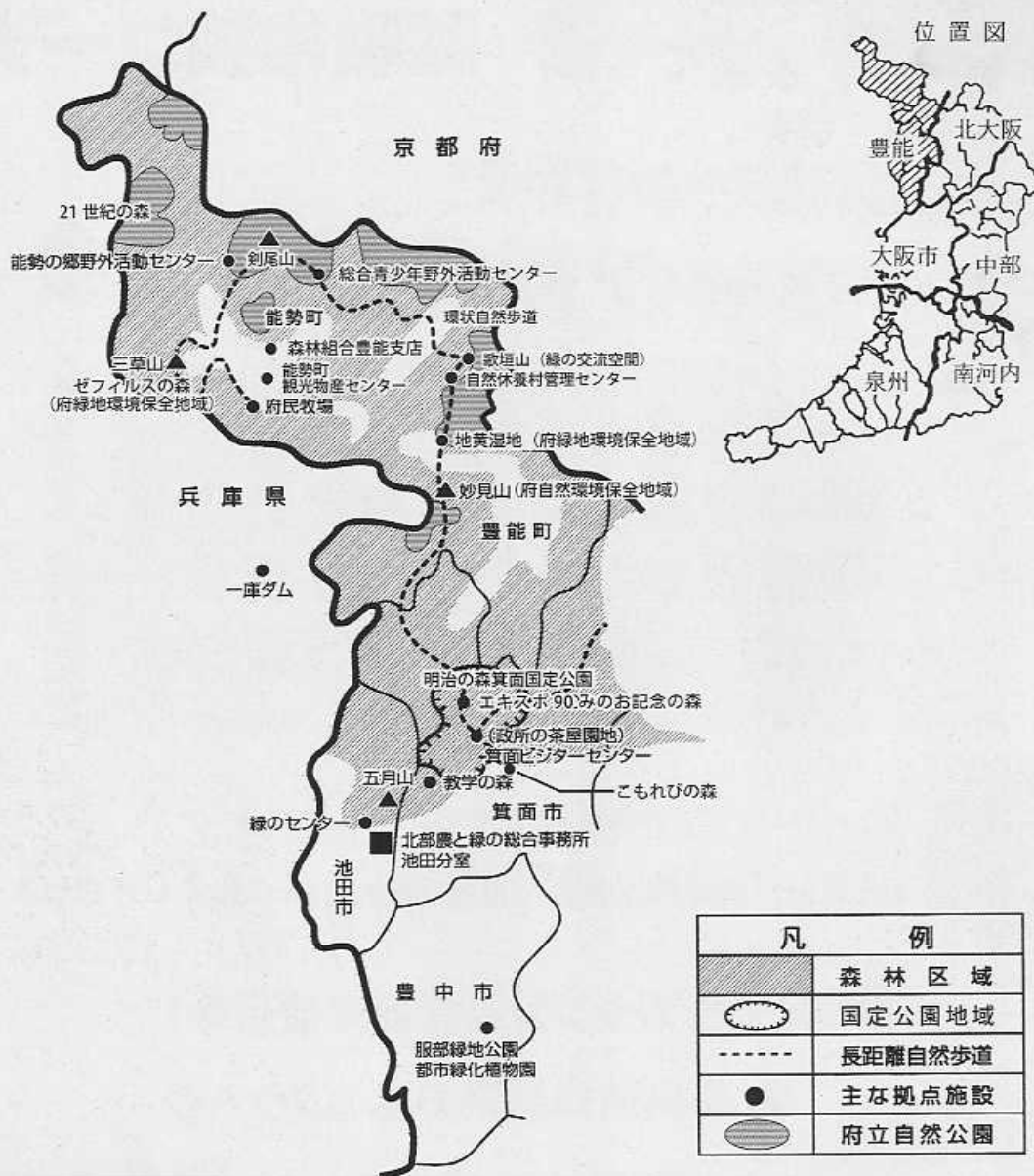
ご利用時間：月曜日～金曜日（土・日・祝日休み）

8：30～17：15



7 地域の森林・林業の概要

1 豊能の森林・林業



1 地域の現状と課題

豊能地域は大阪府北西部に位置し、古くから交通の要衝として栄え、近代は大阪のベッドタウンとして発展してきた。地域の北～中部の林野率は56%と府平均31%の1.5倍で、人工林率は33%と府平均の47%より低い。地域の森林はかつて、薪炭の採取など地域の生活と密接に関係していたためアカマツやクヌギ、コナラ林を主とした里山林が多く、野生動植物の豊かさが特色である。

しかし、里山林の多くは近年の燃料革命などの影響で放置され、松枯れや藪状化等の荒廃が目立つとともに、ニホンジカによる林業被害が深刻となっている。このため、森林所有者等の林業に対する経営意欲を衰退させないためにも、その適切な対策が課題である。

■ 豊能地域の森林の状況(平成18年3月31日現在)

項目 区分	土地面積 (ha)	森林面積 (地域森林計画対象民有林+その他+国有林)		民有林面積 (地域森林計画対象民有林+その他)		
		面積(ha)	林野率(%)	面積(ha)	人工林面積(ha) (人工林率%)	保安林面積(ha) (保安林率%)
豊能地域	23,938	13,393	56	12,826	4,261 (33%)	2,967 (23%)
大阪府域	189,431	58,195	31	57,097	27,035 (47%)	15,266 (27%)

2 地域の森林・林業の特色

(1) 森林組合の活動

地域森林は、7 齢級以下の人工林が多くを占めることから間伐の推進と木材利用を強化するため、大阪府森林組合豊能支店では、丸棒加工施設や製品保管庫を整備し、間伐材の利用や買い取り、加工販売とともに、生しいたけ等の特産林産物生産も行っている。

(2) 森林の多面的な機能増進を目指して

地域森林は、猪名川上流の一庫ダムの水源地として重要であるとともに、良好な景観の形成、多様な生態系の確保など多様な機能を有しており、府では保安林整備事業等の森林整備を通じ、森林の持つ多面的な機能増進に努めている。例えば、従前からのスギやヒノキの植林だけではなく、郷土樹種の広葉樹植栽や、松枯れ被害跡地における天然林育成等、地域に適した自然林への誘導も行っている。

3 地域の主な取り組み

(1) 貴重な自然環境の保全管理

大阪府自然環境保全条例に基づき指定される保全地域7箇所のうち3箇所が豊能地域にある。

- ① 三草山は周囲の棚田群と一体となった美しい景観を成し、ヒロオビミドリシジミをはじめとした貴重な動植物が生息(育)
- ② 地黄湿地には、サギソウやモウセンゴケをはじめ97種類の多様な植物が自生し、ハッチョウトンボなど湿地特有の貴重な生物が生息
- ③ 妙見山の山頂付近には、学術的にも貴重なブナと常緑樹(アカガシ等)の混交林があり、野鳥等の生物相も豊富

これらの①、②の府緑地環境保全地域では、(財)大阪みどりのトラスト協会を中心に地元、府民による保全活動が展開されている。

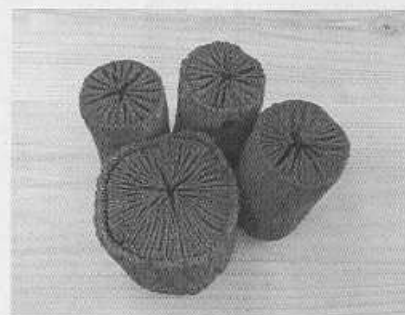
また、箕面市の市街地の北側の森林は「明治の森箕面国定公園」として古くから府民に親しまれ、平成13年に「大阪府立北摂自然公園」に指定された能勢町から豊能町にかけての6エリアの森林と、これらを結ぶ「おおさか環状自然歩道」とともに森林レクリエーションの場として親しまれている。



能勢町山辺から望む三草山一帯の里山

(2) 池田炭づくりの復興による里山林整備

かつて猪名川上流域の里山では、地域の良質なクヌギ材を伝統的な炭窯で「菊炭」が生産され、池田に集荷し、お茶炭の高級品「池田炭」として流通していた。また、地域には良好な薪炭林が広く分布していたものの、社会情勢の変化で炭焼きが衰退し、炭職人も減少したため、良好な薪炭林が減少した。このため製炭者や茶道関係者、ボランティア等が参画して池田炭づくりを再興するため「池田炭づくり支援協議会」を平成16年に設立するとともに、平成17年度には、NPO法人池田炭振興協会が設立され、良好な里山林整備と技術の転承を目指した活動を展開している。

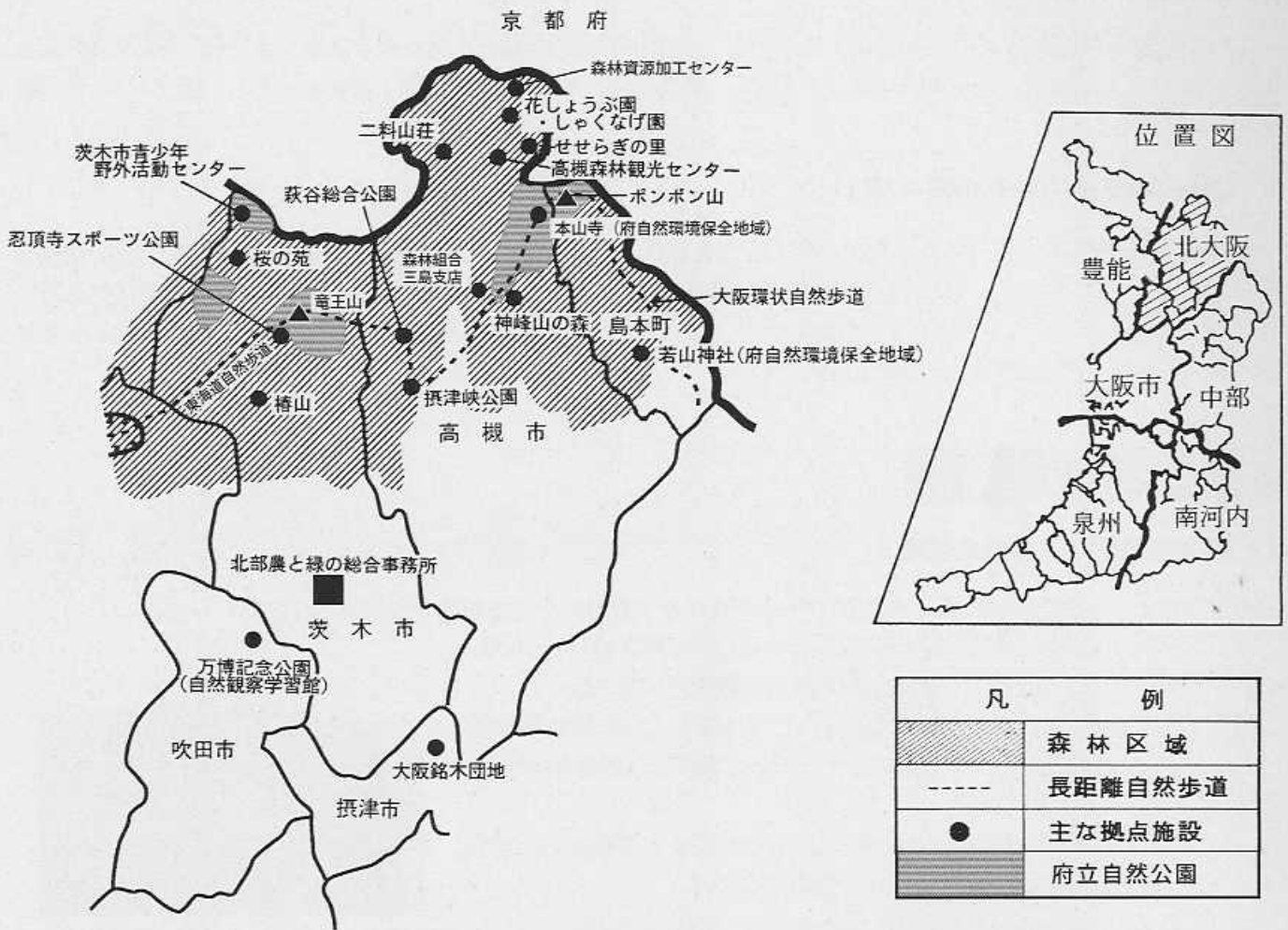


池田炭

(3) 豊能地域の「森づくり委員会」活動

豊能地域では、地黄住民参加の森づくり協議会(能勢町)、歌垣の森づくり活動(能勢町)、池田炭づくり支援協議会(能勢町・豊能町・池田市・箕面市)、東畑の森づくり活動(池田市)の4つの森づくり委員会があり、地元、地域住民、ボランティアによる森づくり活動が活発に行われている。

2 北大阪の森林・林業



1 地域の現状と課題

北大阪地域は古くから大阪・京都間の要衝として栄え、昭和 30 年代後半以降の宅地開発に伴う都市化が進む一方で、森林の公益的機能に対する要請が極めて高い地域である。当地域の森林は主に茨木市、高槻市、島本町の北部に偏在し、北摂連山の一角を形成している。

当地域はかつて、薪炭採取などの里山的利用が行われてきたものの林業活動が低調なため、人工林率は 36% と府平均の 47% より低く、コナラ等を主とした豊かな自然が残っており、このような環境を後世に残していくため、当地域では茨木市、高槻市の森林の一部が平成 13 年に府立北摂自然公園に指定された。

近年、里山的利用も少なくなり、また林業経営意欲が低下する中、森林整備の中核を担う森林組合の取り組みはもとより、今後は森林ボランティアの力も取り入れながら、放置森林対策等を推進していく必要がある。

■ 北大阪地域の森林の状況(平成 18 年 3 月 31 日現在)

項目 区分	土地面積 (ha)	森林面積 (地域森林計画対象民有林+その他+国有林)		民有林面積 (地域森林計画対象民有林+その他)		
		面積(ha)	林野率(%)	面積(ha)	人工林面積(ha) (人工林率%)	保安林面積(ha) (保安林率%)
北大阪地域	24,959	8,949	36	8,802	3,196(36%)	1,630(19%)
大阪府域	189,431	58,195	31	57,097	27,035(47%)	15,266(27%)

2 地域の森林・林業の特色

北大阪地域の人工林は7 齢級以下の育成途上のものが大半を占めている。このため、大阪府森林組合三島支店では、育林作業のほか「観光林業」として高槻森林観光センターの運営や森林資源のリサイクルとして木質ペレットを生産する「環境林業」に取り組んでいる。

3 地域の主な取り組み

(1) 都市近郊を活かした森林整備の推進

○大阪府森林組合森林資源加工センター

北大阪地域の森林整備の中心である大阪府森林組合三島支店では、平成14年から森林資源のリサイクル活動や地球温暖化防止の観点から、間伐材などの未利用資源から「木質ペレット」を生産する「森林資源加工センター」を稼働させるとともに、「ペレットストーブ」の普及を行っている。



森林資源加工センター(高槻市)

○「市民林業士の養成」

平成16年に大阪府、高槻市、森林組合が主体となり既存の森林ボランティアとは違った新たな森づくりの担い手として、森林管理の知識や技術を持つ人材を養成する「市民林業士制度」を創設。この講座の卒業生が中心となり、平成17年3月に「NPO 法人森のプラットフォーム高槻」が設立され、森林所有者から要望のあった箇所へ順次「林業士」がボランティアリーダーとして出向き、森林整備を推進している。



「市民林業士」による森林整備

(2) 多様な関係者による森づくり活動

大阪府島本町と京都府大山崎町にまたがる天王山周辺森林では、森林所有者・ボランティア・地域住民・企業・行政等の多様な関係者が参加した「天王山周辺森林整備推進協議会」(平成17年3月3日設立)で定めた整備構想に基づき、約250haの森林整備に取り組んでいる。

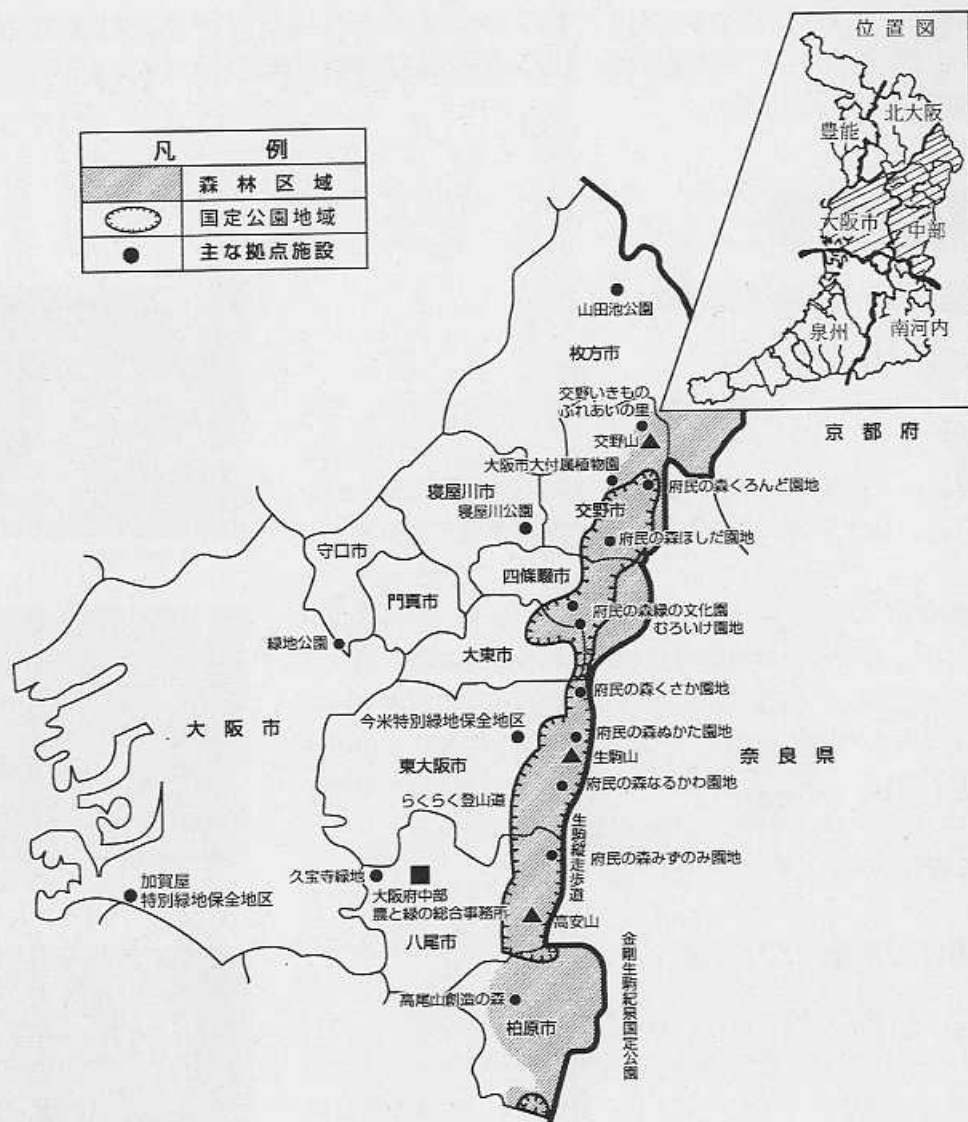


天王山周辺森林整備推進協議会

(3) 北大阪地域の「森づくり委員会」活動

「森づくり委員会」名	活動目標
車作の森保全協議会 (茨木市)	特用林産物の生産を目指した森づくりとあわせて、キツネノカミソリの観察会を開催するなど自然環境教育を推進する。
たかつき森のプラットフォーム推進委員会 (高槻市)	森林管理の知識や技術を習得したボランティアリーダー(市民林業士)を養成するとともに、関係者が連携して森林整備を推進する。
島本桜井地区森づくり委員会 (島本町)	放置竹林を整備し、里山を再生するとともに、竹材の利用を通じて地域の活性化を図る。
天王山周辺森林整備推進協議会 (大阪府島本町・京都府大山崎町)	企業をはじめ多様な関係者が府境界を越えて連携・協働し、天王山周辺の森林整備を推進する。

3 中部地域の森林・林業



1 地域の現状と課題

大阪の中央部に位置する中部地域は、東部を南北に走る生駒山系の稜線を境に奈良県・京都府と接し、林野率は10%と他地域に比べても低いものの、森林地域の約7割が金剛生駒紀泉国定公園特別地域に指定され、府民の森が整備されている。

当地域の年間降水量は約1,200mmと少なく、森林の生育条件としては適さないため、スギ・ヒノキを中心とする人工林の占める割合は30%と府平均の47%を大きく下回っている。また、戦前に行われてきた薪炭林経営はエネルギー革命により衰退し、さらに不在村所有者の増加など、放置森林が増加傾向にある。

一方、生駒山系は大阪の中心街から約20km圏内の都市近郊に位置し、古くから滝や社寺等を多くの府民が訪れて親しまれており、山地災害防止はもとより、府民の身近な“みどり”として森林浴・自然体験活動や癒しの場としての役割を担っている。

■ 中部地域の森林の状況(平成18年3月31日現在)

項目 区分	土地面積 (ha)	森林面積 (地域森林計画対象民有林+その他+国有林)		民有林面積 (地域森林計画対象民有林+その他)		
		面積(ha)	林野率(%)	面積(ha)	人工林面積(ha) (人工林率%)	保安林面積(ha) (保安林率%)
中部地域	52,840	5,047	10	5,047	1,502(30%)	779(15%)
大阪府域	189,431	58,195	31	57,097	27,035(47%)	15,266(27%)

2 地域の森林の特色

管内の森林は、クヌギ・コナラなどの豊かな生態系を育む天然性の森林が大半を占めており、生駒縦走歩道を始めとする多数のハイキングコースや大阪府民の森、緑豊かな自然や野鳥・昆虫と身近にふれあうことのできる「交野山いきものふれあいの里」、小学校の森林体験学習に活用されている「高尾山創造の森」など多くの森林利用拠点が設けられ、森林レクリエーションなどを通じて多くの府民に利用されている。

〔大阪府民の森〕

府民の森は、府政百年を記念して大阪府が昭和42年より生駒山系の利用拠点として整備を進めてきた園地である。全長280m、最大地上高50mの木床板吊橋で、人道吊橋としては全国的にも最大級の交野吊橋「星のブランコ」のある、ほしだ園地(交野市)をはじめ、くろんど園地(交野市)、緑の文化園むろいけ園地(四條畷市)、くさか園地・ぬかた園地・なるかわ園地(東大阪市)、みずのみ園地(八尾市)の7つの園地が600haのエリアで設定されている。



「星のブランコ」
〔府民の森ほしだ園地〕

3 地域の主な取り組み

(1) 企業参加による森づくりの推進

府民のみどりの象徴である生駒山系を豊かな森林にすることを目的に企業や大学、行政等の多様な主体が協働して森づくり活動に取り組む「生駒の森運営協議会」が平成17年11月21日に設立され、東大阪地域の森林を対象に活動を開始。

この取り組みでは、間伐をはじめとする森林整備活動を、その内容に応じて、CO₂の削減量に換算し、削減ポイントに応じて企業が提供する特典と交換できる全国的に見ても珍しいユニークな制度(森の貯金箱CO₂)を取り入れている。

今年度から府民を対象に森の健康パワーを有効に活用する「森のウォーカー講座」も実施し、一層の取り組みの推進を図ることとしている。



森林整備活動
〔生駒の森運営協議会〕

(2) 府民との協働による森づくりの推進

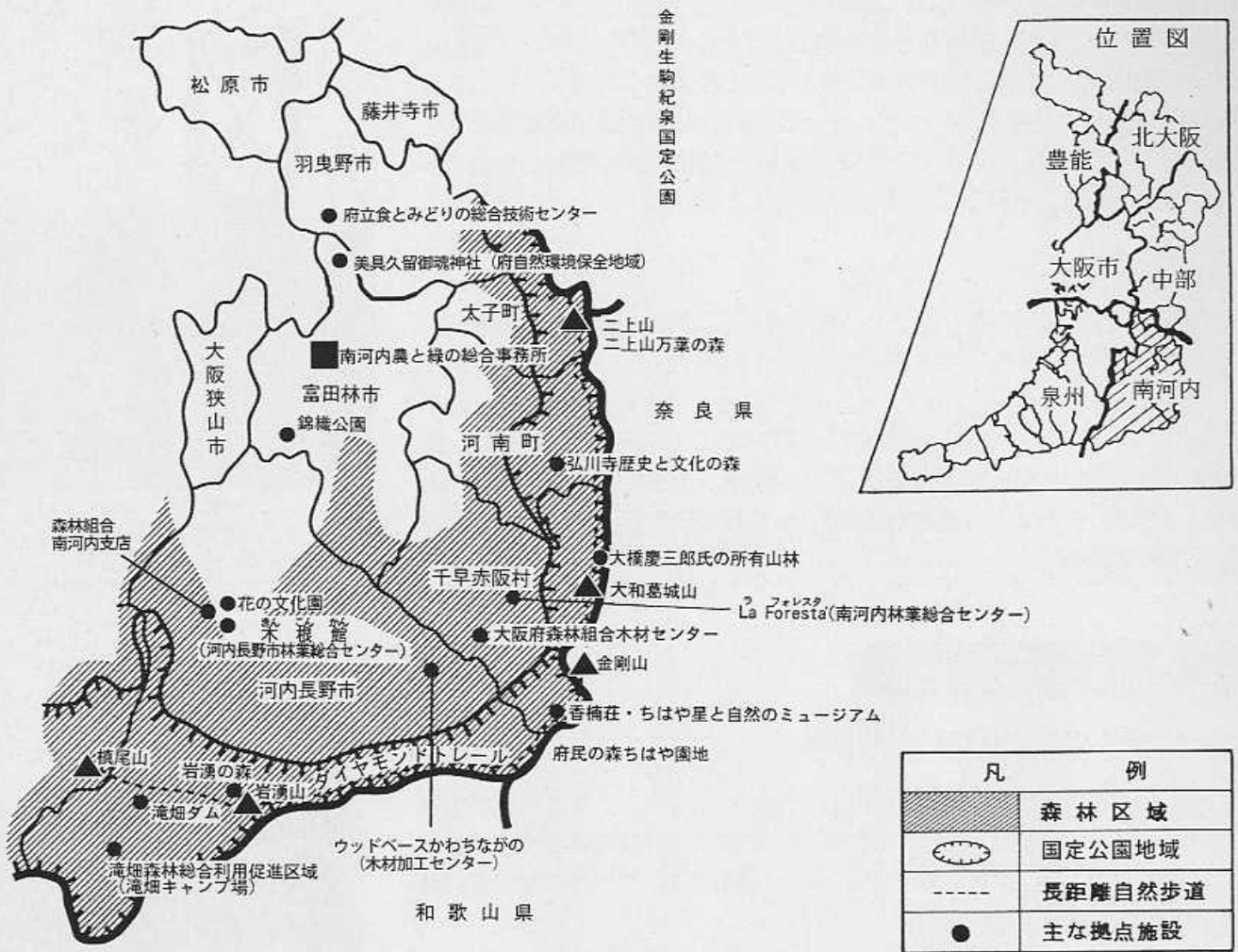
中部管内では、多様な主体が参画して協議調整・プランニング・グランドワークを実施し、地域の森づくりを推進する組織が、津田地区森づくり推進委員会(枚方市)、倉治さとやま委員会(交野市)、枚岡地区鎮守の森づくり委員会(東大阪市)、柏原市学びの森づくり委員会(柏原市)として4地区で設立されている。

これらの委員会では、対象エリアの森林整備方針の検討、市民ボランティアによる森林整備の実施はもとより、地域の状況に応じて市民を対象としたイベントの開催や大阪教育大学との連携による森林環境学習を通じた里山保全意識の普及啓発、ボランティア団体のネットワークづくりによる効率的な森林整備の推進等、様々な取り組みを進めている。



柏原市学びの森委員会の活動

4 南河内の森林・林業



1 地域の現状と課題

南河内地域は大阪府の南東部に位置し、北を大和川、東を奈良県、南を和歌山県、西を泉州地域に囲まれた6市2町1村を包括し、総面積は約290km²で府域の約15%を占めている。本地域の山地は、奈良県及び和歌山県と接し、金剛山地と和泉山脈の東部分に位置している。府内最高峰の金剛山(1,125m)、大和葛城山(960m)、岩湧山(897m)などがそびえ、府内では比較的起伏の大きい山筋が形成されている。

本地域の森林面積は12,860haで人工林率は70%と高い。また、これら山間部の7,840haは、金剛生駒紀泉国立公園区域に指定されており、府民の森ちはや園地や大和、南北朝時代の史跡等が多く見受けられる。また、二上山、金剛山、岩湧山、滝畑ダム周辺等は、都心部からのアクセスの良さも相まって、野外レクリエーションの場として広く府民に親しまれている。

本地域では、古くから集約的な林業が営まれ、森林資源の内容は年々充実しつつある。しかしながら材価の低迷や後継者問題等、森林・林業を取り巻く諸情勢が依然厳しい中で、今後この豊富な資源をいかに活用していくかが、大きな課題となっている。

■ 南河内地域の森林の状況(平成18年3月31日現在)

項目 区分	土地面積 (ha)	森林面積 (地域森林計画対象民有林+その他+国有林)		民有林面積 (地域森林計画対象民有林+その他)		
		面積(ha)	林野率(%)	面積(ha)	人工林面積(ha) (人工林率%)	保安林面積(ha) (保安林率%)
南河内地域	28,993	12,860	44	12,774	8,994(70%)	5,542(43%)
大阪府域	189,431	58,195	31	57,097	27,035(47%)	15,266(27%)

2 地域の森林・林業の特色

河内長野市、河南町、千早赤阪村等にまたがる約 13,000ha の森林は、約 300 年の歴史を持つ人工林地帯であり「河内林業地」と呼ばれている。

河内林業の起源は、灘の酒樽丸太材生産を目的とした造林といわれており、奈良の吉野林業の影響を受けた、スギ・ヒノキの混交密植造林と、こまめな間伐・択伐による集約施業が特徴である。生産される材は通直・完満で、年輪幅が細かく均一な粘りのある良質材として、市場でも高い評価を得ており、現在「おおさか河内材」の名称で独自のブランド化を進めている。



良質な「おおさか河内材」

3 地域の主な取り組み

(1) 大阪府森林組合の取り組みについて

本地域には大阪府森林組合南河内支店があり、河内林業の中心的担い手として、各種保育作業による森林の育成のほか、次のような様々な活動を展開している。

「ウッドベースかわちながの」

河内長野市にある JAS 認定の国産材製材加工施設。生産する製材品は全て、人工乾燥・モルダー仕上げを徹底し、また流通コストを抑えるため、工務店等と連携し、市場を通さず直接建設業者へ納入する、独自の産直販売体制を整え、おおさか河内材の需要拡大と、地域林業全体の活性化を図っている。



「ウッドベースかわちながの」

「木材センター」

千早赤阪村にある府内唯一の国産材専門の原木市場。おおさか河内材を主体とした府内産木材の流通拠点として、木材の販売だけではなく、林業相談や情報提供の場としても活用されている。また、センターの隣接地には開発行為で発生した伐採木をはじめ、センター内で発生する木くずや間伐材等をバイオマス燃料として利用するためのチップを生産する「南河内樹木リサイクルセンター」が併設されている。



「木材センター」

(2) 南河内地域の森づくり委員会の状況について

「弘川寺歴史と文化の森」ふれあい推進協議会

河南町弘川にある「弘川寺歴史と文化の森」は中世の歌人・西行法師ゆかりの地で知られる名刹「弘川寺」を中心とした周辺約 68ha の森林で、サクラやクヌギ、コナラ等の広葉樹林のほかスギ、ヒノキが植えられている風景など、身近に自然にふれあえる里山として、歩道や駐車場等が整備されている。

弘川寺歴史と文化の森ふれあい推進協議会は、地元地区代表、地元小学校、大阪府森林組合、NPO 法人里山倶楽部（森林ボランティア団体）、河南町、大阪府等が参画し、豊かな自然環境を守り育てる活動として森林整備とその活動の普及を行っている。



「弘川寺歴史と文化の森」

■大橋慶三郎氏所有山林(千早赤阪村水分内)

- 大阪府指導林家、大橋慶三郎氏の所有する山林約 100ha は、独自の省力林業経営により、林内に作業道が高密度(247m/ha)に整備され、きめ細かな森林作業が可能となっている。
- 独自の林業経営が、第 32 回農林水産祭林産部門の天皇杯を受賞するなど、全国的に高く評価されており、年中多くの視察者が訪れています。

※視察申込みは、大阪府みどり・都市環境室森林課活動支援グループまで。



大橋慶三郎氏の所有山林

2 地域の森林・林業の特色

本地域の森林面積は約 18,000ha で林野率は 31%。和泉市は自然条件に恵まれ、河内林業の流れをくむスギ、ヒノキの混交密植造林を特徴とする集約的な林業が営まれてきたものの、近年は優良大径材生産の長伐期施業に移行しつつある。また岸和田市、貝塚市を中心にシイタケ、タケノコ生産を主とした農林複合経営も行われている。

泉州東部の和泉市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市では、流域森林総合整備事業等の造林事業が行われているものの、材価の低迷や林業経費の高騰、後継者不足等により、地域林業は依然厳しい状況にあり。

一方、泉州西部は、土壌が低質でアカマツや広葉樹の混交林が多くを占め、林業生産力は低い。

岸和田市、貝塚市にまたがる和泉葛城山には、低い緯度、標高でありながら約 10ha の天然ブナが生育し、学術上貴重なため大正 12 年に国の天然記念物に指定されている。しかしながら、近年衰退傾向にあるため、大阪府では「和泉葛城山ブナ林保護増殖調査委員会」の提言を受け、平成 4 年から平成 5 年にかけてブナ林の周辺森林（バッファゾーン）約 46ha を取得し、(財)大阪みどりのトラスト協会が中心となり保護増殖活動を続けている。

和泉市から泉南市までの和泉葛城山系 4,298ha のエリアが平成 8 年に「金剛生駒紀泉国定公園」に指定され、和泉市の槇尾山から、和泉葛城山、泉佐野市の犬鳴山等、日帰りでハイキングを楽しむことができるため多くの府民に親しまれている。

近年、森林や環境への関心が高まる中、滞在しながら里山の生活体験や自然について学習する里山の自然学校「紀泉わいわい村」が府民の森ほりご園地(泉南市)に整備されるなど、森林の保健文化的な利用も図られている。



紀泉わいわい村(泉南市)

3 地域の主な取り組み

(1) 神於山の里山再生への取り組みについて

岸和田市の神於山では、竹林の拡大等、管理不足で荒廃が進んできたため、地元や農林業・漁業関係者、里山ボランティア団体、行政などからなる「神於山保全活用推進協議会」が設立され、神於山の自然環境の保全や活用に取組んでいる。

この協議会は、失われた自然環境を取り戻し生態系の健全性を回復することを目的とする「自然再生推進法」に基づく協議会として位置づけられており、里山の再生としては全国でもはじめての取り組みである。

また、企業が森林の整備に参画する大阪府のアドプトフォレスト制度の第 1 号として、シャープ株式会社が神於山の保全活動に加わっており、多様な主体による森づくり活動のモデルとなっている。



神於山の全景(岸和田市)

(2) 泉州地域の森づくり委員会の状況について

泉州地域の森づくり委員会は、この「神於山保全活用推進協議会」のほか和泉市南横山地区における「南横山森の駅づくり委員会（和泉の国の森づくり）」等、地域住民やボランティアによる森づくり活動が熊取町、泉佐野市、阪南市等で活発に行われている。



ボランティアによる森づくり(神於山)

6 食とみどりの総合技術センターの試験研究

当所では、企画部みどり支援課とみどり環境部自然環境グループが連携し、森林、農地といった自然資源である「みどり」全般に関連した課題に取り組んでいる。

最近の森林関係の試験研究テーマは、バイオマスやCO₂吸収量算定のためのモニタリング調査、自然関係では、野生動物の分布・生態調査が主体になっている。

ここでは、北摂地域（豊能地域、北大阪地域）で農林被害が大きい野生シカの防除方法を検討した成果を紹介する。

調査方法は、シカ3個体に首輪型GPS装置（1時間に1度の測位頻度で、3ヶ月間追跡）を装着し、その行動を追跡した。この結果とへい死データからシカの行動を地理情報システム（GIS）により解析し、以下の結果を得た。

■シカの行動圏の解析

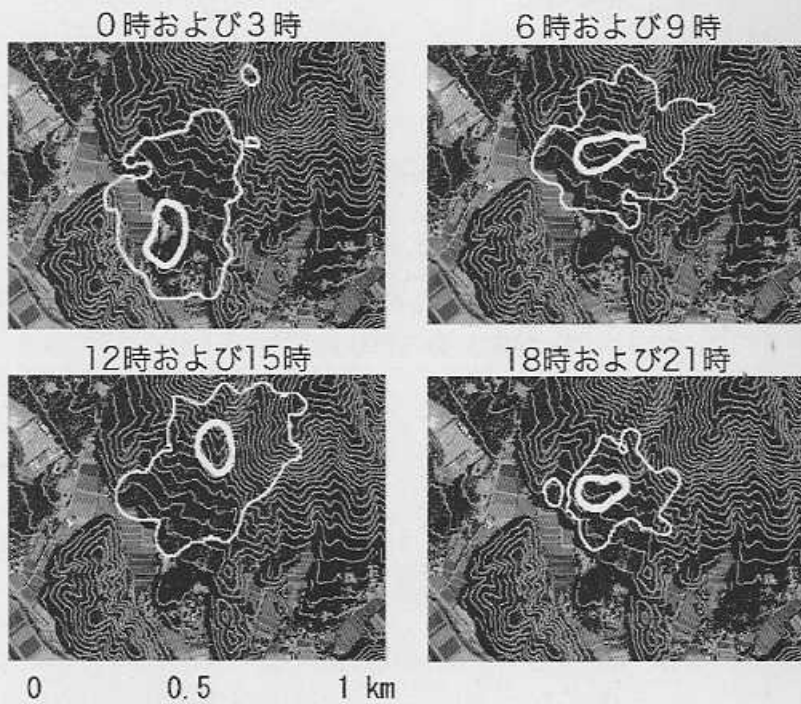
- ① 行動圏を農地に依存したシカ（第1図）は、昼間に山中、深夜に農地周辺を利用する明確な日周行動を取った。そして、朝や夕方の時間帯には山裾の傾斜角15度以下の緩傾斜地を利用している。行動圏全体は直径1km程度で比較的狭い。
- ② 行動圏を農地に依存していないシカは、昼夜の土地利用に明確な法則性が見られず、比較的広い行動圏を利用している。

■被害が顕在化した地域の実態解析

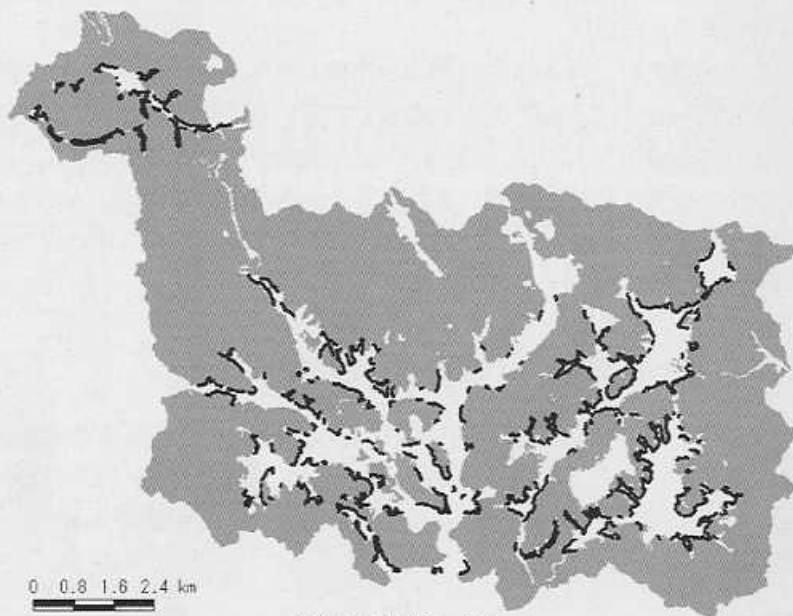
- ① 15度以下の緩傾斜地と1km以上の森林を有する森林・農地の境界線と防除網にかかりへい死したシカの分布はよく一致した（第2図）。
- ② 農業被害を防除するためには、シカの農地に依存する要因である、1km程度以上の深さの森林（昼間の隠れ処）と林縁部の傾斜角15度以下の緩傾斜地（薄明時の待機場所）に着目する必要がある。

■被害対策について

以上より、地形と土地利用区分からシカの分布が拡大している地域においてシカの被害の深刻化が予想され、重点的な防除が必要な地点の抽出が可能となった。



第1図 農地に依存したシカの時間帯別の行動圏と利用のコアエリア



第2図 ハザードマップ

7 近畿中国森林管理局管内の国有林

近畿中国森林管理局は、近畿・中国地方、北陸・東海の一部2府12県を管轄区域とし、国有林31万ha、官行造林地3.1万haを管理経営しています。

平成18年度は、森林・林業に対する国民的理解を醸成しつつ、地球温暖化防止のカギとなる森林整備を、木材利用を通じて推進しているところであり、以下の2課題を重点項目として取り組んでいます。

課題1. 国産材の安定的供給と利用

地球温暖化の防止と併せ資源循環型社会の形成、地域振興等に貢献していくため、木材・木質バイオマス、とりわけ国産材の利用を一体的に推進することとし「持続可能な国産材の安定的供給」、「フェアウッド(合法、持続可能木材)の普及」「国産材利用推進」に取り組んでいます。



安定的な木材販売



森林土木事業に間伐材使用

課題2. 森林環境教育の推進

森林・林業に対する国民的理解や地球温暖化防止森林吸収源対策への意識の醸成など森林環境教育は重要です。このため、平成18年度は、森林環境教育の実施に当たり「森林(もり)の友達づくり」として、森林環境教育関連事業に総合的に取り組んでいます。



森林環境教育プログラム作成、森林環境教育モデル校指定
(箕面国有林で森林環境教育プログラムの試行的実践)

○大阪府内の国有林

大阪府内の国有林は、約1千haで、箕面市、高槻市、阪南市、岬町に分布しています。

北部の箕面国有林及び南部の紀泉高原国有林は「レクリエーションの森」、「自然休養林」に指定されており、遊歩道、自然探勝路、キャンプ場、園地などの施設が設けられているので、自然に気軽に触れ合うことができます。

○箕面国有林(箕面市)

明治の森箕面国定公園の中心地で、東海自然歩道の西の起点に当たります。

広葉樹林と人工林のコントラストが面白く、山頂部から大阪平野が望めます。天然記念物のサル生息地で、隣接して勝運の寺「勝尾寺」があるなど、ハイキング、自然探訪、森林浴など、自然とのふれあいに最適です。

また、国有林内の「エキスポの森」、「勝尾寺園地」では、小学生対象の森林教室や間伐体験、森林ボランティア養成スクールの実習の場として利用されています。



勝尾寺園地で森林教室



○紀泉高原国有林(阪南市、岬町)

大阪府と和歌山県にまたがる起伏に富んだ高原で最高峰の雲山峰からは和歌山平野、淡路島、和泉平野、六甲山系、関西国際空港などの雄大な眺望が広がり、ハイキング、自然探勝など大人から子供まで楽しめます。

この国有林は、昭和27年7月の豪雨によって大きな被害が発生したことから、上流域を国が購入し、荒れた山肌からの土砂流出を防ぐため山腹に階段を切り植栽を進めた結果、今では緑に覆われた森林となりました。



紀泉高原国有林



国民の森林・国有林

近畿中国森林管理局

〒530-0042 大阪市北区天満橋 1-8-75

TEL 06-6881-3500

ホームページ <http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/kyoku/>

いのち
— 生命を育むおおさかの山 —
おおさか「山の日」宣言

私たちが住む大阪は、周辺の山々に抱かれています
生活の合間に、ふと目を留めるのは周辺の山並みです
山は、四季折々にその色や姿を変えながら、繊細な美しさ、みなぎる力、
豊かな実り、自然の厳(おごそ)かさなど、
季節の彩りと森の恵みを私たちに与えてくれます

空気をきれいにし、生命の源である水をたくわえ、
動物や植物の生きる場所を与えてくれる山
私たちの生活の安全を守り、心のうるおいや身体のいやしとしての山
長い時の流れの中で私たちを見守りつづけてくれる山

かつて私たちは山とともに密接に暮らしてきましたが、
次第に都市生活の中で山との関わりが薄れています
今こそ豊かな山の恵みに感謝し、暮らしの中に山との関わりを深め、
山や森に親しみ、学び、森を守り、森を育てることが必要です

私たちは、様々な恵みを与えてくれる
このおおさかの「山」を見つめ直し、おおさかの「山」を守り育てながら
かけがえのない「山」を次の世代に手渡していくことを
大阪府民として宣言します

平成17年11月12日

森林・林業に関するお問い合わせ先

環境農林水産部みどり・都市環境室森林課 (TEL/06-6944-6747)

<http://www.pref.osaka.jp/midori/>

○北部農と緑の総合事務所地域政策室 (TEL/072-627-1121)

<http://www.pref.osaka.jp/hokubunm/>

○北部農と緑の総合事務所池田分室 (TEL/072-752-4626)

○中部農と緑の総合事務所地域政策室 (TEL/072-922-3070)

<http://www.pref.osaka.jp/chubunm/>

○南河内農と緑の総合事務所地域政策室 (TEL/0721-25-1182)

<http://www1.odn.ne.jp/afn-minamikawach/>

○泉州農と緑の総合事務所地域政策室 (TEL/072-437-2530)

<http://www2.odn.ne.jp/afn-sensyu/>

○府立食とみどりの総合技術センター (TEL/072-958-6551)

<http://www.epcc.pref.osaka.jp/afn/>

緑の雇用担い手対策事業について

～新規林業就業者受入れ事業体の研修経費を助成～

- 林業事業体の皆様が、森林整備等の作業を行いながら将来を担う人材を確保・育成する場合に一定額の助成が受けられる「緑の雇用担い手対策事業」が平成18年度から始まりました。
- 本事業の助成手続きにつきましては、下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

■大阪府林業労働力確保支援センター

〔(社)大阪府木材連合会内〕

〒550-0013 大阪市西区新町3丁目6番9号 大阪木材会館内

TEL/06-6538-7524

■大阪府環境農林水産部

みどり・都市環境室森林課 活動支援グループ

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目

TEL/06-6941-0351 (内線 2752)

大阪の森林と林業
平成18年9月発行

発行 / 社団法人 大阪府木材連合会

大阪府林業労働力確保支援センター

編集 / 大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室森林課

企画 / 大阪府林業普及指導職員会議

PRINTED WITH
SOY INK

R100

環境にやさしい大豆インキ

大阪府林業労働力確保支援センター